

信州型自然保育認定・登録制度

認定基準(案)

領域	番号	大項目	小項目	申請書形式	備考
団体基礎情報	①	団体概要	名称	記述	
			所在地	記述	
			代表者氏名	記述	
			設立年月日	記述	
			連絡先電話番号他	記述	
	②	運営概要	保育理念	記述	
			保育時間	記述	
			職員構成(有資格者人数ほか)	記述	
			有資格者の資格内容	記述	
			年齢ごとの園児数	記述	
			利用料金	記述	
			団体規約の提出	チェック	
理念に関する基準	③	自然保育の基本理念をより深く理解している	自然保育のとらえ方	記述	
			子どもの成長における体験活動のとらえ方	記述	
			保育や幼児教育の中で、「体験型」、「地域一体型」、「幼保小一貫型」についてどのようにとらえているか。	記述	
			日常的な実践にどのように反映しているか	記述	
	④	国の保育指針、幼稚園教育要領(教育・保育要領)の趣旨に基づいた実践をしている	計画的に実施している体験活動の内容について	記述	
	⑤	地域社会との連携を大切にしている	地域の保育ニーズを把握し、市町村と連携が図られている	チェック	
			他の保育団体との積極的な学びあいや交流の意思がある	チェック	
			他団体との具体的な交流内容	記述	
			市町村や地域の様々な団体と意識的に関係を築いている	チェック	
	⑥	小学校との連携を大切にしている。	所属する園児について、個別に小学校との定期的な連絡を取っている	チェック	認定基準のみの項目
			日常的な小学校との連携活動について	記述	

実践基盤に関する基準	⑦	運営体制を整備している	運営責任の所在について(理事会、運営協議会、評議員会、保護者会など、運営についての意思決定機関を持っているかどうか含めて)	記述	
			実践に関して継続的な計画(年間、月間、週間計画など)を立てている	チェック	年間計画提出
			実践課題について認識し、改善に取り組んでいる(PDCA:計画、実行、評価、改善の取り組みを意識しているか)	チェック	具体的な課題がある場合には記述
	⑧	団体運営の維持に努力している	会計処理が適正になされている。	チェック	認定基準のみの項目 公立園においては財政面は市町村が担保しているものと理解 財政諸表の提出
			組織運営の方針や体制が整備されている	チェック	
			運営における問題や課題に対してどのように対応し解決しているか	記述	
	⑨	安全管理の体制を整備している	緊急時における子どもの命の安全について配慮されているか	チェック	より広範囲なフィールドや多様な活動内容にそった安全管理の視点
			子どもたちの健康把握が日常的になされている(登園時および降園時等)	チェック	
			体験活動の際のヒヤリハット等の蓄積と共有や事前研修がされている	チェック	
			子ども自身が自分の安全に配慮できるような指導をしている	チェック	
			職員や保護者間で安全に関する意識や事故等発生時の対応が共有されている	チェック	
			医療機関との日常的な連携ができている(かかりつけ医など)	チェック	
			危機管理の指針、マニュアルが整備されている	チェック	
	⑩	設備環境を整備している	使用するフィールドについて所有者や域の了解を得ている	チェック	認定基準のみの項目
			子どもの体験活動を効果的に実践するための設備や道具等が整備されている	記述	(例)子どもの目線や立場から野外体験等への動機づけが可能となる工夫がされている。
子どもの心身の安心や安全を保持するための設備環境が配慮されている			記述	(例)活動フィールド内に屋根のある設備を確保している。 子どもが個別に休養できる休憩室などのようなスペースを確保している。	

実践基盤に関する基準 (つづき)	⑪	情報開示および個人情報保護の仕組みを整備している	人権への配慮と法令遵守を宣言しているか。	チェック	
			登録申請書および活動報告書等の開示方法が具体的に示されている(施設内設置含む)	チェック	団体のパンフレットやホームページ等の整備確認
			個人情報保護の対応について示されている	チェック	個人情報保護方針(プライバシーポリシー)や個人情報保護規程を有し、団体として適正に収集した個人情報が適正に管理され、漏えい等の発生にも速やかに対応できる
			職員及び子どもの状況を明らかにする帳簿等を整備している	チェック	
実践内容に関する基準	⑫	活動フィールドについて	多様な自然体験等に対応するために、具体的にどのようなフィールド(森、川、里山、畑等)が確保されているか。	記述	年間計画提出【再掲】
	⑬	体験活動について	自然と向き合う体験活動を計画的に実践しているか。	チェック	実践の様子を示す写真等
			自然環境を活用した学びのプログラムの具体例について(遊びや創作活動含む)	記述	
			農作業や食育など多様な生活体験プログラムを実践している場合の具体例	記述	
			子どもの年齢に応じたプログラムや、異年齢集団でのプログラムが設定されている	チェック	未満児に対する配慮がなされている
			地域と連携した活動の具体例(伝統行事、食育等への参加含む)	記述	
			小学校との連携を意識した活動の具体例(小学生らの参加の有無についても)	記述	
	⑭	屋外での体験活動について	子どもの感覚が刺激される屋外での体験活動を、一日平均60分以上計画的に実施している(未満児について量的基準は設定せず、できる限り外に出ることでOK)	チェック	屋外での活動とは、園庭での自由遊びや散歩等、外で体を動かす活動を幅広く含む。ただし完全にプログラム化されたものではなく、子どもの自由意思や主体性(気づきや発見、子どもどうしの交流など)等が尊重されるものであること
			具体的な活動例について	記述	
	⑮	活動の記録について	理念に基づく多様な体験活動について詳細な記録を残している	チェック	
			屋外でどのような体験活動を、どのくらいの時間実施しているか	記述	活動に関する資料提出
	⑯	保護者との連携について	保護者が体験活動に参加している	チェック	
			保護者が体験活動に関わる際の課題等を団体として認識している	記述	
保護者の理解を促進するために工夫をしている			記述		
保護者への支援(相談等)のノウハウと体制を持っている			チェック		
実践に関する記録等の公開に同意を得ている			チェック		

保育者、職員に関する基準	⑰	保育者(職員)の体制および資質や経験について説明できる	保育に従事する職員数および保育士や幼稚園教諭等の有資格者の人数が、国が定めた基準を下回っていない	チェック	
			保育者(職員)それぞれの保育経験年数	記述	
			野外活動等の指導資格等の有無や野外活動に関する研修会等の受講経歴について	記述	
			安定的な活動に必要な職員を配置している(保健や食事について配慮した体制かどうか)	チェック	
	⑱	保育者(職員)の資質向上に努力している	保育者が自然体験したり、保育経験やノウハウの共有等を目的に、団体として定期的に研修やミーティングを実施している	チェック	
			他団体が主催する研修会や交流会等への参加や、講師、研究発表等の経験がある	チェック	
			消防署等が実施する「救命救急講習」等に参加した(予定含む)職員がいる	チェック	